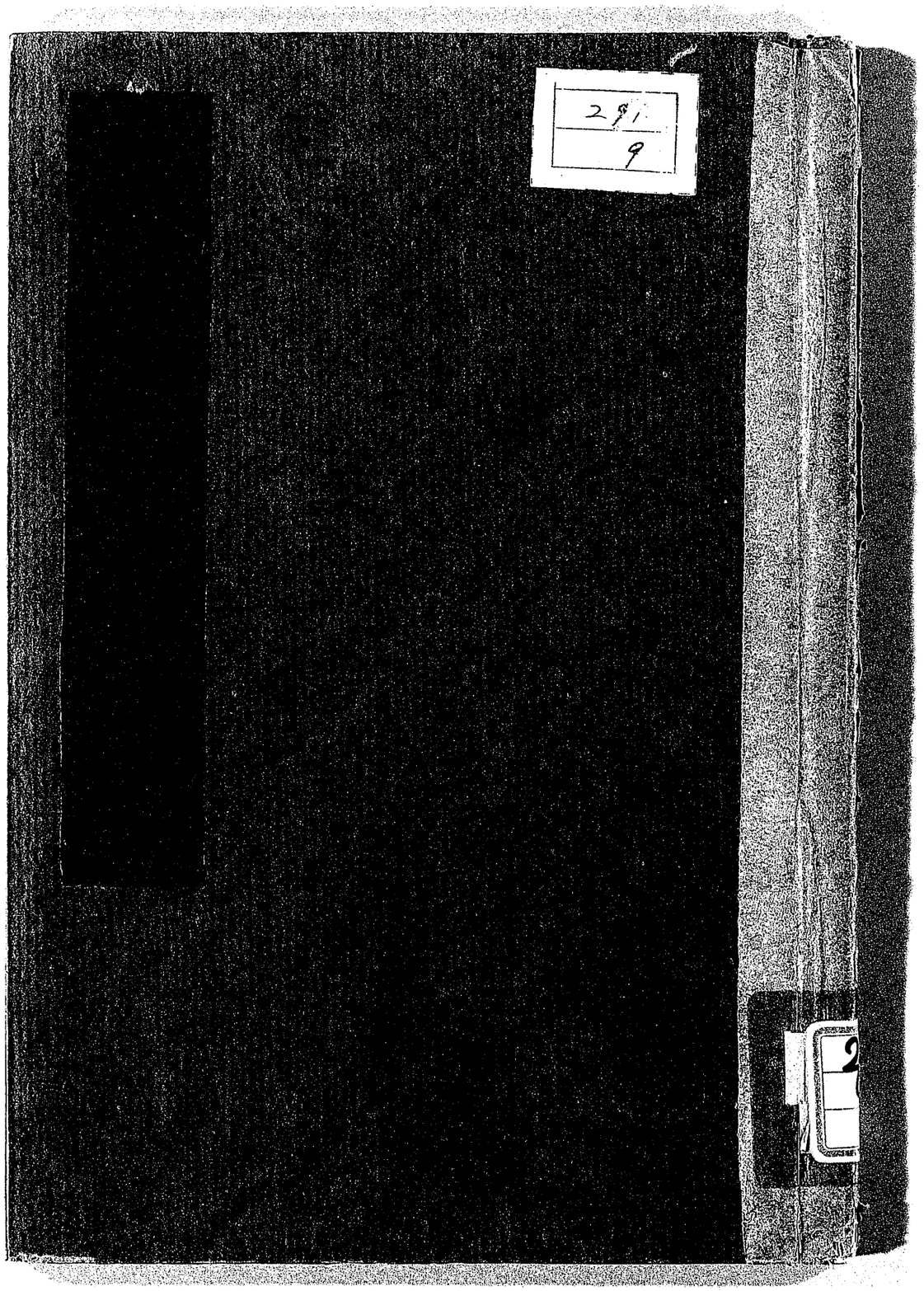

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935

紀外戦国列傳

（田澤主膳系 知行某 写給）

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935

中根文庫藏

紀伊戰國列傳

小幡儀太郎著

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935

291
9
1

紀伊戦国列傳目次

一 秋積氏 附鈴木権左衛門尉氏
二 中氏
三 杉向氏
四 有国氏 附村松氏
五 鶉殿氏
六 長田氏
七 楠氏
八 泰地寺附和田氏
九 目良氏
一〇 色川氏 附法本氏
二 高名氏
一二 熊野小山氏
三 周参見氏
一四 古座宮氏
一五 西牟山氏
一六 野長瀬氏 附橋本氏
一七 真砂氏
一八 山本氏
一九 安堵氏 附畠辺氏
二〇 田辺氏 附田良田所氏
二一 湯川氏 附名臣諸氏
二二 杉若氏

古座高校図書館
28.10.21
蔵書NO. 3935

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03935

三五四百戸
三山地戸
二七黄志戸 阿陽町白杵二戸
元宮崎戸
二加茂戸 阿家西諸戸
三汗味戸 阿同郷諸戸
三陽橋戸
二伴田戸
元太田戸
阿蘇 甘藤巻等諸

三宮川戸
三島山戸 阿宮原戸
六神保戸
二椎原戸
三鈴木戸
四佐到戸
三土橋戸 阿日御諸戸
三田所戸 阿日御諸戸
四平野戸 阿日南諸戸
御田吉野諸戸

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03935

紀伊國列傳

小幡儀太郎稿

一穂村　阿須賀神社ノ氏

鈴木權平　是ノ熊野三氏ト謂フ云（巻末和歌山縣人物誌ニ詳ニ出ツ人物誌ニ註ス）

二中氏　巻末著ス

中氏　巻末著ス

三栖内氏

安宅宇宮

四有馬氏　阿須賀神社

武蔵宇有馬村ニ在リ

五鵜殿氏　日吉荘ニ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935

鞆殿藤助ハ

六 長田氏 長一ヲ太ニ作ル 鳥井氏ハ世ヲ新宮廟ニ云

長田正政ハ世ニ云

十 栂氏 本宮和田氏ノ分枝ト称シ嘉兵衛ハ同 正敬ニ至ル

栂嘉兵衛名ハ良清栂正成ノ後ナリ熊野山中ニ生レ堀内氏ニ従軍シ屢〻戦功アリ戦略ニ於テ称賛ヲ博シ新宮廟前ヨリ堀内氏ノ書策ヲ賛ケ堀内七ヲ後ハ竹屋ニ同ジ本宮ニ転居シ又江戸ニ遊ビ兵法ヲ由井正雪ニ授ケ帰レバ栂不傳ノ称セリ一子アリ父ト栂ヲ同シ嘉兵衛ト称シ頭ニ仕ヘ今食禄五百石而シテ族アルハ蓋其遺伝カ否ヤハ知ラズ

或曰栂嘉兵衛ハ後新宮水野氏ニ仕ヘ今食禄五百石

ハ 秦地氏 秦ヲ太ニ作ル 阿和田氏

秦地五郎左衛門名頼実ハ云ヒ

九 日良氏

当寛方院ハ日良ノ氏ト為セリ云ヒ

十 色川氏 阿倩木氏 有田郡和松氏共住ス・商トイフ参看セヨ

色川三九郎ハ三位中将維盛ノ孫ナリ云ヒ

二 高瓦氏

高瓦氏ハ光盛ノ称ニ非トナセリ云ヒ

三 東小山氏

小山実隆ハ錦宇府将軍秀忠ノ後ナリ云ヒ

一三 周参見氏

主馬大鞠周参見氏長ハ云ヒ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03935

一四 安富氏

安富頼春ハ加古義頼ノ裔ナリ云々

一五 一色小山氏

石見守小山経幸姓ハ藤原氏云々

一六 野長瀬氏 阿波ノ人

野長瀬六助六祢正経ノ後ナリ云々

一七 真弓氏

真弓左衛門尉真弘ノ祢ヲ称シ云々

一八 山本氏

主膳大夫天山孝泰忠ハ法名宗忠ト号ス後ノ所ト古川ニ移ル

天正十三年九月主膳正泰忠ハ堂和泉守後ノ所ト古川ニ移ル

於テ自害ノ祢ヲ屋敷ヲ其室ニ子因幡及家士

六名ヲ従ヘ、国参見荘度瀬谷ニ趣ク(一周参見主馬大夫ト縁アル由

ル)後家士ヲレヲ下元川長其他ノ地ヲ開家士セレメ室ニ居住セリ現

今其家士十六名ノ子孫ト称スル者三十余戸ニ及ヘリ旧

帯時代山内家ノ祢ノ御紋ヲ免セラレ苗刀ヲ許サル、者稀ニ

一九 田邊氏 阿波ノ人

熊野三山別当田辺法橋ヨリ云々

二〇 安井氏 阿波ノ人

安井氏ハ御田住ヨリ移リ云々

二一 鈴若氏

杉若氏水野氏ノ祢ヲ称ス云々

二二 陽川氏 阿波ノ人

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03935

湯川氏ハ先祖ヲ祀ルヲ祖ト為セリト云ン

三三 玉置氏　阿家臣諸氏

玉置氏ハ濱ノ字ヲ以テ祖ト為セリト云ン

三四 喜川氏

喜川氏ハ世ニ喜川村ニ住シテ云ヒシヨリ云ン

三五 山地氏

山地某ハ世ニ東村ニ住シテ云ン

三六 白山氏　阿家臣氏

白山義就カ父持国ト曰フ　持国ハ大和河内紀伊数州ニ領ヲ有セシ人ナリ　持国ヲ為セリ　持国ヲナクレヲ幼ナルヲ以テ遂ニ政長ヲ養フテ嗣ト為ロリ仍テ政長ヲ生メリ　是カ義就トイフ　遂ニ政長ヲシテ義就ニ譲ラシム　政長肯セス　相戦フ事年　持国義就ニ敗セラレ既ニシテ又相和シ

和セリ　実地是ニ於テ始テ判レリ　政長ハ河内紀伊数州ヲ領シ常ニ河内ニ居レリ　応仁ノ乱政長義就ト京師ニ移リ戦ヒ寺ニ走レ政長菅蒲谷ニ陣セリ　義就ハ河内ヲ攻メ政長ヲ逐ヒ政長ノ子尚慶ヲ高屋城ニ囲ム　尚慶ノ子ニ季ハ自ラ下山ト称シ有田ニ来リ喜多村ニ居レリ　適マ大兵来攻レテ城陥リ季之ヲ死ス　或云フ河内ヲ逃レ

適ヲ

義就ハ大和ヲ領シ有田ニ来リ喜多村ニ居リ子孫皆喜多氏ト為セリ　下山ハ後又国山氏ト改ム　或云フ下山ハ後ニ来地ノ富家糸屋某ヲ三村ト為セリ　大二十三年豊臣氏ノ来伐ニヤ逃レテ能ク全ヲ得タリ　後ハ桐ヲ作リ及ヒ白氏ヲ仕ノ家臣名アル者村ニ在リ　額田地来石川ニ氏アリ　糸ヲ仕ノ家臣名アル者村ニ在リ　中西村ニ在リ　岩井則岡岩井伊豆四氏アリ　遠村ニ在リ　中西村ニ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935

德川氏大祖之ヲ六十士ニ班セリ

三七 黄老氏 阿陽球白壁二氏

黄老氏ハ多ク良ヲ苗ヲ蕃流ヨリ貫ケ荘ニ居リ畠山義郎ノ有田ニ在ルヲ嘗テ鳥屋城ヲ留守ヲ成ヲ近郷ニ極ヲ畠山氏ヨリ修事ヲ多ク荘地頭ヲ為セリ采地ハ保田田政二荘及海部郡下村ニレアリ

三八 神保氏

神保某ハ世ニ石垣荘ニ住シ四十金村ヲ係食セリ額田氏一万石ノ客臣ニシテ采地七千石ヲ和州ニ於テ賜リ家ヲ徙ヲテ和州ニ之ノニコレリ或ハ郷里ニ止ル者亦之レアリ

元宝時氏

宝暦八年多ク世ニ宝暦荘ヲ食ヲ額田ニ千石豊臣氏来仕スルヤ采地ヲ失ヒ之ノ所ヲ知ラズ

三九 桂原氏

桂原寧太夫ノ世ニ大峠村ヲ食ヲ額田一百七十石村ニ海岡ヨリ徙テ宿ヲ其先益時下野国ヨリ流サレテ世ニ至リ下野相模ヲ自ヲ土豪ト為リ紫宸氏ノ采代ニヤ土地ヲ去ヲ一家士ト為リ蓮道村ニ隠レリ

四一 加藤氏 阿家臣

加藤氏ハ加藤荘ニ住シ采地額田二千石豊臣氏ニ仕ヘルヤ采地ヲ失ヒ之ノ所ヲ知ラズ家臣多ク従ヒ大ト為リ就中名ア

ラハ金島ト曰ヒ前山ト曰ヒ桐爪ト曰ヒ徳川氏之ヲ六十士ニ班セリ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03935

三三 鉾木氏

鉾木氏ハ其先雲州ノ田ヒヨン

三三 河嵜氏 阿日所住氏

河嵜宝珍、鉾木荘ヲ雲州人世ノ孫ナリヨン

三四 佐竹氏 一二佐武ノ作ノ又意幸ト称ス

佐竹源次大夫、伊勢守ト称シ陣幕ノ前ニ

三五 湯嶋氏

湯嶋離ル大姓ノ奏氏ヨン

三六 土橋氏 阿日郷住氏

土橋若狭大夫ト世ヨ森谷村ニ住ヨヨン

三七 津田氏

津田監物小監物及自由斎、鏡ヲ蓋ヒ本田鋭伎ノ祖ナリ

三三参照備考ノ者

十八番ト装音ヤリ

十人名荘ニ住シカル地記（公私面税無之ヲカル地記トイフ）八百石ヲ
人員ヨリ時ニ根来寺子院ニ杉坊名者ヨリ根来寺ノ為メ院外
重事ヲ掌シリ世ニ津田氏カ一子ヲ以ヲ坊主ニ為セリ天平十
三年豊臣氏ノ来伐ニヤ遂ニ宋地ヲ失ヒ大和大納言ニ仕
ヘ邑宰ト為リ寺ヨリ堺田左衛門尉及津野氏地田氏永井
氏ニ仕ヘ監物ニ至テ鉄伎ヨ長ヒ武ヲ以テ甚子十市谷郷ニ去ヲ帰リ
姪ニ十人名某ヨリ姓前等ニ仕フ
吉村栄内ト金谷魯土屋大橋西川等阿氏皆根来寺衆
徒ヲ仕フ

三八 田所氏 阿日郷住氏

田所氏ハ谷地ニ散在セリヨン

三九 太田氏 阿日郷住氏

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03935

太田次郎左衛門"世々紀氏"為ノ太田城ヲ守レリ云々

四ノ字姫氏 阿月御方氏

平望氏"世々高川荘ヲ食ト云々

安藤冬名ハ直次冬阿ノ人ナリ其先安倍仲麿ノ裔ニ
仕ヘテ太宰ト十七リ仲麿八去ノ孫朝任ト云フ後鳥羽天皇ノ朝ニ
仕ヘテ姓藤原ヲ賜ハリ因テ二姓ヲ合セテ各其一字ヲ取テ安藤
氏ト稱セリ曾祖親壽上人ト親シク善ク大
日ノ法ヲ修シ其邸宅ニ
其説ヲ喜ビ遂ニ身ヲ佛ニ
就テ伽藍ヲ開キ明眼寺ト號
仕ヘテ世々之ニ住事セリ當時築ク所ノ河堤後世其名ヲ以
之ニ府スルニ至レリ父基能ハ三方原ノ役ニ従事シ軍模大
盛ヲ以テ戦死ス冬ハ母ニ死セリ冬ハ
出テ徳川氏ノ為ニ洪業ヲ調賛シ並ニ名アリ
天文廿三年冬冠年ヲ以テ生ル勿ニシテ穎悟果敢志謀人ヲ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03935

愛セリ

元亀元年庚午十七姉川ノ役ニ従事シ浅井長政ノ軍ヲ大嵩山ノ下ニ破リ始テ首級ヲ獲タリ

天正二年甲戌年廿一四月六日東照公軍ヲ乾山ニ進ムニ會テ霖雨泥深ク糧ヲ輸スルニ艱メリ諏将大野景貫追躡シテ之ヲ奪ハント欲セリ爰旋テ之ヲ撃退セリ時ニ東照公飢ル甚メシ爰ニ飯ヲ盛リ之ヲ薦ムルニ公大ニ喜ヒ遂ニ之ニ倚リ以テ経日ヲ賜ヘリ

三年乙亥年廿二五月廿一日東照公軍ヲ進メ武田勝頼ト長篠ニ於テ戦フ爰ニ逐北シ某兵ヲ殿シ六月旋ヲ高明城ヲ攻ム爰兵ヲ将サテ之ヲ撃破シ守将朝比奈又太郎ヲ降セリ

四年丙子廿三二月東照公遂ニ再ヒ軍ヲ乾山ニ進ム爰先登シテ樽山勝政ヲ取リ守将城ヲ棄テ、遁ル

八年庚辰年廿七五月三日東照公田中城ヲ攻ケリ時ニ又矢兵ヲ将サテ之ヲ撃破セリ

十二年甲申年三十一長久手ノ役ニ従軍セリ是ニ於テ織田信雄、豊臣秀吉カ説ヲ信輝林長可ニ説テ己ニ叛カシムルニ精怒ヲ好テ修メテ校ヲ德川氏ニ背キ織田氏ニ援ケキヲ憫ミ四月九日遂ニ豊臣氏ト長久手ニ於テ戦ヒ大ニ之ヲ破リ長可其兵ヲ以テ直チニ公カ親軍ヲ襲ヘリ爰ニ馬ヲ回ラシ公ニ謂テ曰ク我兵陣スル所利アラス今将ノ山嶋ヨリ銃ヲ放テハ必ス死スヘシ公之ニ従テ長可カ兵果シテ潰乱セリ長可亦死ス中テ死ス信輝カ子□之助邀撃ス爰之ヲ破

ル乃チ兵ヲ進メテ我部将井伊直政之カ先登ヲ為シ兵ヲ葉
ヲ□之助ト指揮ス指ントスル名シテ矣呼ヲ曰ク万千代恐ハン□
之助之ヲ顧ミル直政固ヨリ之ヲ橋ニスルヲ待タリ万千代直政ノ
カ小字ナリ信輝方ニ甲ヲ擐キ冑ヲ戴キ従タル未襲セントス
兵徒カサルヲ恐レテ躊躇之ヲ久シ矣銘ヲ提ケテ之ヲ走リ直ニ之ヲ
刺セリ適テ永井直勝来リ之ヲ橋ニ而シテ矣従タル手
ヲ下サス遂ニ黙シテ言ハサル者ノ直次ノカナリ公雪荷(名工ノ名)ヲ以テ矣ニ賜ヒテ
曰ク一日ノ戦顔将之ヲ獲ルハ古今未タ聞カサル所而シテ
能ク功ヲ人ニ譲ル忠臣ト謂フヘキナリ深ク之ヲ稽揚セリ
十六年矣年三十五四月十八日東照公ニ竜従シテ京師ニ朝
ヒ始テ豊太閤ニ謁セリ是ニ於テ之ヲ諸大名ニ班リ帯刀長ニ
拝セリ

十九年矣年三十八　食邑一千石ヲ賜ヘリ

慶長四年矣年四十六　冬十月従ニ兵ヲ十六人ヲ領セリ是ニ於
テ石田三成之カ隠謀アリ東照公ヲ襲撃セントス欲スル矣ヲ
原康政ト兵ヲ将井ニ伏見城ヲ護衛セリ

五年矣年四十七　関原ノ役起リ九月朔日東照公江戸ヲ発
シ関東ニ赴ク矣行人ヲシテ命ヲ其間ニ奔走シテ奏セシム
六年矣年四十八　食邑五千石ヲ加賜セリ時ニ同助神
佐ノ将ニ各二万石ヲ賜ヘリ矣其中ニ在リ而シテ有司誤テ
横須賀五千石ヲ給フヤ後十六年成瀬正一ト東照公ニ
謁シテ言ヒ及フ公大ニ驚キ曰ク三万石ヲ横須賀ヲ以テ一万石
ト為セリ而シテ五千石ヲ給正臣等ト予ニ後ニ我国ノ間ニ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935

奔走セリ因テ同ク之ヲ賞シ一所ノ軽重アラン故色ニ顕サズ又敢テ言ハズ人モ之ヲ言フ及ンデ中ニ忸怩ノ恵義ノ誠ト謂フベキヨリ是ニ於テ数年ノ後一時ニ事賜ヘリ

十年庚午五十二　食邑二千石ヲ加賜セリ

十二年庚午五十四　東照公移テ駿府ニ居レリ冬食邑五千石ヲ加ヘテ本多正純成瀬正成ト倶ニ教授トナリ冬特ニ横須賀兵士ヲ領セリ初横須賀城主大須賀康高東照公ニ従軍シ屢功アリ横須賀兵ヲ領セシム康高卒ヤ嫡子忠政ニ横須賀ヲ継テ其兵ヲ領セシム九月忠政幸ニテ薨ス高幼ニ於テ遂ニ城ヲ命アリ

十五年庚午五十七　公子常陸介傅リ執政故ノ如シ常陸介ハ東照公ノ十子中ノ長ニテ九歳封ヲ駿遠ニ受ケ邑ヲ五十万石ニ分チ常陸介ヲ以テ水戸ニ封ス因テ之ヲ水戸ト称ス

十六年辛未五十八　十月東照公ニ従テ江戸ニ如ク大将軍鞍馬及時服黄金ヲ賜ヘリ

十八年癸酉六十　九月十七日東照公東南ニ遊ビ駿ニ於テ鷹ヲ奏シ十八日大将軍並ニ庵従セリ十月十八日大将軍並ニ庵従セリ

請老臣近侍ト庵従セリ

賜ヘリ

九年癸亥六十一　正月十四日老臣土井利勝、安藤重信老臣ト並ニ東照公ノ旨ヲ承ケ大久保忠隣ヲ徴シ此年二月三日遂ニ沼津城ヲ毀チ沼津城ハ大久保治右衛門守ル所ナリ是年十月朝日京都諸司総官牧合勝重豊臣秀頼大坂ニ於テ叛スルヲ告ク十一日東照公駿府ヲ発シ大坂ニ赴ク常

陸人亦從フ　十八日養諸将陣営ノ事ヲ掌ル是ニ先キ諸将陣住吉ニ陣ス養盡ノ之ヲ廿宗臼山ニ移セリ　十二月二日養多正純成政正成ト東照公ニ従ヒ　十騎茅臼山及大坂城ヲ視ル時ニ井伊直孝兵ヲ将ヰテ来ヲ公ニ謁シ　ニ日ノ臣本多事ヲ討ニス又敢テ請ハス而シテ去レリ公之ヲ聞キ諸将ニ語テ曰ク孝ハ言先鋒ヲ欲スルニアラスヤ養對ヘ曰ク誠ニ然リ　ニ日ノ午前ニ欲スル所ヲ聴サンカ為ニ再ヒ遣ス衣袴ヲ養ニ賜フ　三日ノ午時ニ直孝陰冬一両ヲ養衣ヲ脱シテ贈レリ　松平右衛門直良兵ヲ将ヰテ進前ヨリ来リ真ニ大坂城ヲ攻ム城兵雲ノ如ク砲撃シ出テ直臣撃ク能ハスシテ敗走セリ軍吏以テ曰ク公養ニ命シテ始メ兵ヲ撤セシム是ニ於テ徳川氏ト豊臣氏ト和ヲ媾セリ

元和元年養年六十二　二月三日東照公及大将軍兵ヲ要害地ニ屯セシメ親ラ軍ヲ班セリ養及本多正純ヲ徴シ軍ノ事ヲ掌ラシム因テ人従ヲ減シ城使大ニ驚テ曰ク約ニ違ヘリ請フ之ヲ止メンヤト養笑テ已ニ諾シテ益ニ之ヲ急ニセシム　七日ニシテ成ル東照公大将軍二城ヲ発シテ親ラ大坂城ヲ徇ヒ給ヒ五月五日東照公及大将軍ニ城ヲ発シテ親ラ大坂城ヲ徇ヒ給ヒ養請将ニ先タチ軍ニ赴ケリ公喜ンテ曰ク海ニ帝ニ公室ニ在リ養ヲ討ヲ敢テ然ニアラサルヨリ若冬大名事ヲ害スル時ニ当テ誰カ之ヲ聴ケリ故ニ乃チ再リ柳ニ人ヲ復害スル時毎ニ廣室ヲ四達シテ以テ之ニ充ツヘシ然ラサレハ人誰カ聞カサン公其智慮ノ遠キ感セリ常陸介亦東照公ニ従軍セリ養盡ノ兵ヲ掌陸介ヲ假シテ單身公カ左右ニ侍シテ暗ニ参セリ　井伊直

茅ヶ陣乱ル矣之ヲ改メム藤堂高虎ヶ陣亦乱ル矣又之ヲ
改メシノ高虎大ニ歎服セリ矣ヶ長子千重能トイフ大将軍ヵ
近侍アナセリ嘗テ人ニ語テ曰ク男児事ニ當テ功ヲ主張以テ誇
ルニ足ラス己ヲ潔クシ財死スルヲ以テ真ニ大丈夫事ナリ大坂役如シ
首ニ顔ヲ描スルモノアルヲ聞カハ他人ニアラス必ス某ナリ如シ前ニ戦
死スル者アルヲ聞カハ他人ニアラス必ス某ナリ勉ト及テヲ直茂ヵ陣
前ニ立テ矢石ヲ冒カレンヲ之ニ馳セ逐之ニ死セリ従者某尻
ヲ頂ケテ矣ニ謁セリ矣叱シテ曰ク以テ大ニ畀ヘヨ事定ルニ及
テ矣之ヲ為メ潜然トシテ矣ヶ外舅楊原直政ヲ以テ朝ト
ンテ矣ニ矣之ヲ為メ潜然トシテ矣ヶ外舅楊原直政ヲ以テ朝ト
テ自ラ三千石ヲ割キ合セテ四千石ト為シ其後ヲ立ルヲ請ヒ准
ヲ得テ而説テ矣帝陸介カキヲ携テ公ニ謁セリ公ヲ臣山ニ於テ謁セ
賜ヒシ飲ヲ求ム侍者曰ク器ハ以テ飲ヲ給スヘキ矣ヲ曰ク器ハ以テ飲
マシ何故ニ無キトイフ公之ヲ因テ曰ク直次湯セリ蓋シ飲
ヒ畢ヘサル軍器ヲ尊卑ナシ何ノ事宜ニ通セサルヤ
二年矣年六十三　東照公顧田五万五千石ヲ以テ楊頂賀兵
ヶ入食邑ト為レテ舊ニ依テ矣ニ領セシメ以テ帝陸介ニ錄
タリ四月十七日公薨セリ
三年矣年六十四　諸矣ト霊柩ヲ供奉シテ日光山ニ葬ル十月
矣難川城主ト為リ食邑三万石ニ封セリ
四年矣年六十五　部ヲ江戸城ニ賜ニ移レリ
五年矣六十六　七月大将軍帝陸介ヲ謁シテ曰ク紀伊国
西ノ要地ニシテ西国ノ喉咽ナリ至親ヲ擇ンテ之ニ鎮セシメム而
家長久ノ計ナリ汝少ト雖ヲ其任ニ勝フシ然レトモ駿遠ハ
先公命封ノ如何ヲ封ニ曰ク孔我国家ニ利アラハ死ヲ且辞

セヲ何ソ驕逸ヲ顧ミン事銭ヲ竭レンニ其任ニ當ル乃チ紀伊ニ移封シ大約言ト為リ後遂ニ食邑二万八千五百石ヲ以テ田邊城ヲ轉セリ

十六年癸卯六十七　是歳大歛公事ヲ以テ十三箇ノ甲冑ヲ摸シ其後又幾モナク戦年ノ穢ヲ行フ時ニ参議堺ノ政ヲ執リ参ノ詰ヲ曰ク豊家時ニ言加何参曰ク七年癸寅六十八　大将軍藤堂高虎ヲシテ未ダ参ト相謀リ和歌山城ヲ修セシメタリ

八年癸卯六十九　是年本多正純罪アリ封邑ヲ失ヘリ初正純人良是五百石ニ封セラル参曰ク正純禍近キニアリ其後加封シテ遂ニ十八万石ニ至レリ参ノ詰ヲ曰ク豊家時ニ言加何参曰ク禍益ニ近キリ昔宇宮ノ原ニ役父佐渡守勲ヲ遂ル所ト毒リ事ニ及ヒ父子並ニ柱ニ交ヲ悪シ正純曰ク大事ヲ誤ルモノハ我父ナリ之ニ自盡ヲ勧ムレトモ人干ノ為ル者父カ死ヲ請フ者情ニアラサリシヲ以テ而レヲ正純之ヲ為セリ天ニ逆ヒ理ニ悖リ罪愆ナシ所ヲ以テ再ヒ其ノ事カ言ノ如シ

九年癸辰七十　九月十三日江戸城ニ於テ七絶一首ヲ賦シテ

桂子冷光三五夜　金枝銀葉児清容
世間誰愛良宵作　金鏡斜明応影春

寛永元年癸子七十一　板倉勝重父子ノ以テ其宅ヲ襲キ京都諸司惣官・命アリ重宗同詣スルヲ許サス時ニ参板倉氏ヲ訪ヒ之ニ重宗ヲ戸外ニ出シ之ヲ送リ曰ク今ヤ其ノ以テ諸司惣官ヲ攘ヒ罔辞シテ敢テ命ヲ奉セサル参曰ク如シ割腹シ傷カラハ受ケヨ

ナカレ重宗遽カニ其命ヲ受ケタリ

二年庚午七十二　黒田筑前守忠之を臣栗山大膳主奠志
アルヲ告ク廷議以為ク大膳理アリ忠之ノ魂封ヲ擬セリ時ニ大
将軍家ヲ召シテ之ニ向フ家対ヘ曰ク凡事ノ理否ヲ判スル甚
タ易シ抑モ君臣父子ノ間豈理ヲ以テ判スヘケンヤ大膳罪アリ逆
ルヘカラス丈夫人臣ト為ル者言フ所理アリト為ルヲ其君ノ罪セン何ノ
君臣ノ義ヲ責ンヤ大将軍深ク其言ニ感シ黒ク獄案ヲ焚セリ
三年癸未七十三　七月台徳公薨大将軍京都ヨリ朝セリ九月
廿日皇上二條城ニ幸セントス是ニ於テ諸侯ニ曙路ヲ警衛セ
シム二条ノ城丸ノ尾張ニ次ケリ大納言大ニ妊テ曰ク尾
紀ニ匹ケリ邑入多寡ヲ以テ差等ヲ為ス皆外様ノ家ノ事ナリ尾
紀何ソ軽重アラン時ニ夜四更ナラントス家又二條城ニ詣リ會ニ
行幸日ヲ城中驚怱タリ執政土井利勝等ヲ召シ曰ク

ノ夜半何故ニ朝セルヤ家曰ク未タ孝セリ慶喜備前侯請フ之ヲ喪更
セン紀尾邑入異ナリト雖ト霊位均シキヲ外諸侯ヲ以テ律スヘカラ
ス紀伊家急然敢テ命ヲ奉セン執政曰ク然リ雖モ業已ニ定
レリ李何トモスヘキヲ今後大礼ト為セリ而シテ尾張ニ後ル生ヲ栄ヲ
皇上行幸最モ大礼ト為セリ而シテ尾張ニ後ル生ヲ栄ヲ
ラン二若カス如シ公芽亦未タシ固ヲ改ル能ハサルヲ某大将軍ニ謁シテ之ヲ面陳
セントス公芽亦未タシ固ヲ改ル能ハサルヲ某大将軍ニ謁シテ之ヲ面陳
及大将軍大ニ覚リ遂ニ之ヲ尾張ニ向ケリ家退テ人ニ語テ曰
ノ願望幸ニ違ヘリ如シ聴カサレハ国焦土ニ帰スルヲ某之ヲ常
ント欲ス是故ヲ家又大納言ニ勧メ幸先シテ大将軍ヲ道
左ニ拝伏セシム大将軍為ニ容セスシテ過ケリ家執政酒井忠利ヲ責
テ曰ク昨何ソ過テルヤ紀伊家ハ大将軍ノ叔父ヲ而シテ地ノ如

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935

将軍ノ咎セサルヿ何ソヤ大将軍遠興ヿ同レテ若礼セリ
四年癸亥年七十四　稲葉正勝寄ニ人ニ謂テ曰ク古人テ天下ニ重寶何
レソ在リト為ヿヤ皆曰ク値千金ニ過ギサル者ハ某ガ某ニ与ヘ某ガ某
ニ与ヘリ正勝微笑テ曰ク子カ言ヒ所ノ者ハ某ト大ニ異ナリ南鎮
ニ一大重寶アリ安藤直次トイフ人アテ天下皆是寶ヨリ高キヿ
アランヤ
六年癸巳年七十六　大納言近習寄ニ者癸ノ印ヿ盗撲レテ人ヿ
ヿ俊ルモノアリ事顕ハレ大納言大ニ怒リ日ノ後ヿ懲スカ為ノ速ニ極
刑ニ処スヘシ癸之ヿ田辺ニ送リ獄ニツナク者殆ント三年人皆之ヿ
怪ム癸方ニ江戸ニ行ク後ヿ嘗テ寄ニ者ニ抵攻ト謂ヿ曰ク吾ニ者癸ノ印ヿ盗
撲ヿ人ヿ陥ルモノアリ之ヿ刑ニ処スヘシ而レトモ未タ抵攻悩怨トレヿ曰ク何レノ
ヿテカ吾ヿ罪ニ者ヿ何レノ世カ刑セサル癸曰ク某ノ之ヿ以ヿ

大事ヲ為セリ冀クハ以ヿ大将軍ニ同シ而レヿ後之ヿ決セン抵攻已
ムヿヲ得スレヿ大将軍ニ同セリ大将軍曰ク嘗テ癸ヲ寄ニ者ヿ困ヿ曰ク誰ニヿ台命ヿ拝セリ大
サラン或ハ妄人カ為ノ交間シ大納言ヿ誣フルモ測ルヘカラス故ニ
今後苟ヿ大納言ヿ告クルモノアレヿ決シテ採ルヘキ者ニアラサルヿ保
シ諸老ノ署名ヿ得テ之ヿ霊セン教政又以ヿ大将軍ニ同カ大
将軍曰ク今後其印ヿ證トシ告ル者アレヿ聴採ル所ニアラス
癸其命ヿ拝シヿ後一年始ヿ刑ヿ施セリ當時多ク大納言冥
志ヿ善フルトイフ者アリ政ニ癸カ言併ヿ改ニ及ヘリ
八年庚午年十八　八月秘説山ヿ江戸ニ赴キ大将軍白鷹
ヿ賜ヘリ
九年辛未年七九　正月十四日台徳公薨セリ癸殉死ニ擬シ

ヲ自ラ生研ヲ日光山ニ遣リ
十年冬年八十 嘗テ放鷹ヲ好ミ遂ニ禁焼ヲ侵セリ看
幸ニテ執政ニ白ス執政ニ曰ス鷹師ヲ責問セラルヽ矣悔慙トシテ
若クハ執政矣ヲ退歇蓋シ切矣曰ク詰問スル所ナル實ハ其
カ命ヲ如ク鷹師ヲ刑セハ自ラ刑スル二等ニ何ノ面目アラン市ハ
自盡セントス柳モ先君東照
必ス改アルヘシ人ニ是等ノ
照ノ大ニ何セントス是ニ於テ事遂ニ止ム其還ラルヽ及
ンテヤ大将軍又自鷹ヲ賜ヲ
胡セヲ是年駿河大納言
江ニ召還ル矣胡ニ於テ相見ル言ハス重直悦ヒスシテ曰ク
人皆ナ不幸ヲ悔ヲ弔セリ指チハ其ト言ハス何ンヤ矣正

色シテ曰ク子ハ吾君カ寵子ヲ輔佐シテ戒飭スル能ハス以テ罪ニ陥ラ
シム三宅得ノ何ノ謂ソヤ人皆矣カ直言ニ服セリ何ソヤ大納言初駿
山ニ下リ見ニ安藤帯刀ヲ叱キ甲斐還ラントスルニ及ンテヤ之ヲ外ニ於テ矣カ
チヲ捺シテ曰ク某事ハ全ク子ニ委セリ修セタル行路労ヲ辱スヘシン
矣景ニ駕ヲ命シテ江ニ赴ケリ書ヲ秋葉行四日ニシテ達セリ
矣ニ先キ和歌山城東淮ヲ修高セリ物儲洵
ニ大獄興ラントスル矣為メニ疏シテ曰ク大ニ紀伊ハ適ニ亜ク
ノ巣窟修理ノ事ハ皆其鎮撫ノ為ニシテ他意アルナシト
リ如ク紀伊矣ニテ叛心アラハ進ンテ大垣城ニ據ル何ソ莞
城ニシテ守ラス遂ニ淮ヲ得ル時ニ大将軍矣ニ貪色ナリト石
ヲ加賜セリ矣色ヲ肆ニシテ白鷹ヲ請ヲ並ニ柱ヲ足白鷹
ヲ賜ヘリ

十二年冬年八十二　五月十二日江戸一橋外賜邸ニ卒セリ
遺言ヲ以テ佐内故副部ニ大洗ヲ参拝明治元年宏壮ノ次
ニ美ル大将軍之ヲ向キ陽井磯岐守忠勝ヲ来テ純伊部
ニ帝ハレノ多数千アリ前夫人中根氏ニ重能ヲ生ニ大坂
ノ後妻ヲ後夫人寺西氏ニ直治ヲ生ニ其家事ヲ襲キ
子孫十数世相承ケ紀伊ノ大傅ヲ為セリ　（完）

明治三十八年十月小幡先生ヨリ稿本ヲ借リテ謄写セシカ
昭和十二年三月之ヲ写シ直セリ
宇井逢蔵

和歌山県史ニ小幡氏ノ紀伊藩内列傳ヲ収録ス昭和十年三ヲ
謄写シ置キシヲ今十五年三月宇井氏ノ写本ヲ借ルヤ之ト照校シ
ヲ異ニ写シタルモノニ朱注ヲ加ヘ今其相違ヲ明カニシ前ニ漏レタル
ヲ補ヒ又誤字ニ有ヲ改ニ謄写ヲ改ニ全ク同ヲ明ニセン
ヲ期セリ

中根熙識

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935

安藤男爵家御系譜

藩祖 直次公

幼名千福丸、彦四郎、彦兵衛ト称ス

天文十三年三月ニ誕生

寛延十二年五月十三日薨去八十二歳

山口阪多院ニ葬ル 嫡男彦四郎重長十九年九月五日大坂陣ニテ戦死ノ時ニ年二十九歳

二代 直治公

直次公二男 幼名千福丸 長次郎ト称ス

慶長十一年誕生

寛永十三年九月二日逝去三十一歳

深山宮之墓 前妻嶋次郎彦兵衛ト称ス 病死

三代 直栄公

千福丸、幼名後千弥門ト称ス

寛延十三年九月七日江戸ニテ誕生

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03935

正徳三年八月十日和歌山にて逝去 十九歳
今井典膳を称す、旧八九郎衛尤
三弥関守撫育松平摂津守監女、直宗公ご存命
ご養子ご在り八十二歳にて死去

四代 直清公

安房彦四郎直政嫡男作之助（彦四郎ハ名家ニテ被害せ）
宝暦十五年十一月十二日神田にて誕生
元禄五年三月十五日紀州にて逝去。行年五十五歳

五代 直名公

直清公二男 勾名権之助 実ハ小笠原
延宝八年十二月九日和歌山にて誕生
宝永五年十月四日和歌山にて逝去 二十九歳

六代 直武公

内膳、新蔵ト改ム 後ニ陳武ト称ス。直清公三男（善寺昌院殿、寿昌院
旧名吉之丞 播文吾兵衛弟 実ハ小笠原
享保二年十月七日江戸市ヶ谷にて誕生 三十九歳

七代 陳定公

直武公嫡男 妻 武部ト称ス
享保二年十月十四日和歌山にて誕生
同 九年十月十九日逝去 八歳

八代 雄能公

安房彦四郎直規公男 彦五郎
宝暦五年十月廿五日東武市ヶ谷にて誕生
享保十五年三月晦日紀州にて逝去 十八歳（実ハ十六歳）

九代 政由公

安房徳部信秀ノ男 伴像ノ称ス
宝暦三年五月朔日江戸にて誕生
明和二年五月八日紀州にて逝去 五十三歳
実方ノ甥ニテ相模守氏定公娘（万内鉄山ノ城主現子爵）

十代 貫長公

姓ハ次ノ如し 称ス
延享四年十二月十六日標準寺にて誕生

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03935

元禄八年三月十二日死去ス　廿二歳

十一代
次直公
安房守　甲斐守　信濃守（加賀ノ懐ヨリ）二男　勝ヲ以テ家ヲ継ク
宝永二年二月二十日襲封　享保七年十月晦日　隠居ス　寛延二年二月二十日薨ス　法名　前宇勝月女
奥方ハ松平豊前守勝男女

十二代
頼融公
後千通　妻トイフ　紀伊中納言家明公九男　益之助　隠居シテ壱岐守ト云
宝暦十二年二月二十日襲封　文化三年　青湾居士ト一緒ニ　傷寒ノ為メ　相次テ病没ス
奥方ハ飛鳥井家姉宮之姫

十三代
真興公
安房　按相（加州侯ヨリ）長丸　駒五郎
従弟ニシテ　猶子ノ契約ス
文化七年十一月廿三日　逝去

十四代
直則公
文政二年十月十日　逝去

十五代
直髭公
松平伯耆守（丹後宮津侯ヨリ）現在　存命ニテ　御座候
文政九年二月廿九日　逝去

十六代
直裕公
直則公　嫡男
明治九年四月　当家ヲ相続ス　奥方ハ松平井波守（信州松本侯ヨリ）女　お文さん方

十七代
直行公
直裕公　男　幼名　徳福丸
安政五年十月二十日　江戸ヶ谷石川本邸ニテ誕生
明治四十一年三月六日午　六ツ半時　業ニ因リ　特ニ　勅ヲ以テ　三位ニ叙セラル

十八代 直雄公

当主
明治十五年生
同四十一年十月三日正五位ニ陞セラレ（叙）本年四月五ツ組四位ニ叙セラル

（以上ハ所領ヲ授ケラルル迄ノ当主ニ係ル）

参考

安藤氏ノコトハ左ノ書物ニアリ

南紀徳川史

安藤直次公三百年祭ニ際シ遠忌ニ要スル
安藤直次公略傳 附安藤家略譜
又領分知行高ハ左ノ通ニ付記ス

徳南紀史叢書ノ一

安永年両家ヨリ知行高並ニ草高ニ

田辺藩士真砂高並ニ其ノ年ノ記録中ニ

田辺ノ表ニ近ク記ス

一	百石	人ニ付
〃	百七十八石	人ニ付
〃	百七十六石	人ニ付
〃	百七十四石	人ニ付
〃	百二十二石	人ニ付
〃	百十二石	人ニ付
〃	九十五石	人ニ付
〃	八十四石	人ニ付
〃	七十石	人ニ付
〃	六十石	人ニ付
〃	五十石	人ニ付
〃	四十石	人ニ付
〃	三十石	人ニ付

田辺ノ南部ニテ
南部ノ印南ニテ
印南ノ内村ニテ
小村ノ衣谷ニテ
衣谷ノ井関ニテ
井関ノ湯崎ニテ
湯崎ノ宝ニテ
宝ノ鴨谷ニテ
鴨谷ノ内平ニテ
内平ノ表ノニテ

右十三人分
外ニ家老

一 徒歩ヲ足
一 上下ノ人二添リ本ヲンニテ持方ヲ六人分
頭従

一 徒歩ヲ足
一 上下ノ人二添リ本ヲンニテ上下二人分持
方四人ニテ
二手ニ。

一 徒歩ヲ足
一 上下ノ人二添リ本ヲンニテ上下二人ニテ持方
三人ニテ
一 徒歩ヲ足片通ノ駕籠ヲ乗百二十文
一 添リ本ヲ上ノ方ニテ下ル
一 供廻一ツニ上ノ四十刻下ノ刻ニ
供廻百五銭ヲ
宿場ニ

仙禾漆銀を之
一金石寺　　を納
南部り村と、之寺、一地村、七名村、
引二村、大井村、之寺惣上ヲ、納り村
一酒を搗き　物納　勘訴　引勘引ヲ
　　甘蒼、田正喪、訴奈、富田二引ヲ
一米を石寺　　を立引ヲ
一大豆（大豆なり）を石寺　　を引ヲ
一大麦を石寺　　を引ヲ
　上ヲ北坂仙宮を山行坂ヲ銀宝
一石引九分　　銀二分ヲ
一百日　　金斤物　名ヲ方なく中、断
一三北日　　手作引人分坂ヲ
　上ヲ二人ヲ惣宝上ヲ名人手引七水
　ち、坂下ロ引ち方ち人ち宝、馬付い
　石坂下は、名ヲ石ヶ事行方ヲ訴ち、
　ち方ち事ち方ち引ち方ち引ち素手人
　ち引ち
　坂仙事方宝引物
　陣方水を米方
一方北二石引　　有部勘御

一金石引九名　　甘蒼御
一金引北を石ヶ平　　田辺郷
一金石寺名　　引
一金石ヶ平　　富田、蒼
一金石ヶ中　　引　富保
一金北石引ヶ平　　引　中村
一金北石引ヶ平　　引　勘兵衛
一大麦を石寺　　引
会石ヶ北を石ヶ平
　傳馬所・山内村・蒼名ヶ北ヶ北ヶ平
　中蒼名ヶ宝
一南部　山内村　　名ヶ北ヶ北ヶ平
　十辺銀名ヶ引　二ヶ　一歩銀
　南辺ヶ北ヶ北ヶ平
　引　　引
　引北ヶ北ヶ会　　そ石ヶ一方
　三ヶ北ヶ会　　ちかいち
　八名引ヶ三引会　右宝、ヶ石ヶ
一田辺所　　一上ヶ梅　一之香芝
一勘兵衛　一家田　二金村　名引
　市ヶ北ヶ有所
　通ヶ北ヶ有所
　五根畑会引北ヶ所

田辺藩士真砂真照享和元年ノ記録中抜萃

明和四年納米之覚

陣方　計納

一元高引ヲ二千ヶ石九拾四石四斗八升六合
一金引一ヶ五千七百八拾七石五斗
　　内二ヶ九引ヶ七ヶ
　　外引百四石二斗
　　人ヶ高
　　畑方歩入
一高九千三百八拾五石五斗六升六合
一高千八百四拾石六斗八升三合ヶ多
　　内四引八ヶ八ヶ
　　取八百引拾八石九斗七升九合
一米二斗四升九合
　　但し無口米
　　差い田辺ヶ地ヶ内ヶ出修物ヶ承ヶ傳信使ヶ為御ニ雑書記船ニ
一米引百四石引斗九升ヶ合　　口米
　　但し御百石ニ付引石ヶ
一米引百五拾石ヶ斗七升引合　　指米

一此ヶ高ニ掛ル所方納ニ計ヶ差ヶ
　上ヶ納ニ計ヶ差ヶ
二人ヶ高ニ対銭ヶ乗
スルモ対乗高ニ出
ヲヌ何故カ
元ヶ高ニ乗ルレハ九
千三百八十三石三斗
四六合ハカ

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935

一、合計

一、米弐百弐拾三石七斗弐合
　　内
　　千弐百三拾弐石九斗弐合　　当御米
　　百九拾石八斗　　当御代官所
一、米弐百弐拾三石七斗弐合
　　内
　　三千弐百拾弐石八斗弐合　　当御米
　　合弐万九百八拾五石七斗五合
　　内
　　三千弐百拾弐石八斗弐合　　当御米
　　千八百七拾五石　　当御米
一、米四拾四石八斗弐合
　　内
　　六百弐拾四石五斗八合　　当御米
　　千弐百四拾八石五斗四合　　当御代官所
　　六百三拾弐石弐斗八合弐勺　　当御米
　　内
　　弐百弐拾弐石弐斗八合弐勺　　当御米
　　三百弐拾四石　　当御代官所
　　弐百七拾石　　当御米
　　弐百弐拾八石　　当御代官所
　　内
　　弐拾石八斗　　当御米
　　弐百五拾弐石　　当御代官所
　　百弐拾三石　　当御米
　　弐百五拾石　　当御代官所
　　三百石　　当御米
右之内弐拾石八斗ハ当巳九月晦日切ニ而御定仕上ケ当御米ニ而御積り之分ハ来ル酉ノ御年貢ニ而御取立ニ相成候ニ付右之内弐拾石八斗ハ当巳九月晦日切ニ而御定仕上ケ当御米ニ而御積り之分ハ来ル酉ノ御年貢ニ而御取立ニ相成候ニ付

一、米弐百弐拾三石七斗弐合
　　内
　　千弐百三拾弐石九斗弐合　　当御米
　　百九拾石八斗　　当御代官所
一、米四拾四石八斗弐合
　　内
　　百九拾八石七斗三合　　当御米
　　弐拾五石弐斗九合　　当御代官所
　　外ニ弐千三百六拾弐石九斗四合　　当御米
　　但し弐百五拾石八斗弐合　　当御代官所
　　内
　　弐百弐拾弐石弐斗八合弐勺　　当御米
　　三百弐拾四石　　当御代官所
　　弐百七拾石　　当御米
　　弐百弐拾八石　　当御代官所
　　内
　　弐拾石八斗　　当御米
　　弐百五拾弐石　　当御代官所
　　百弐拾三石　　当御米
　　弐百五拾石　　当御代官所
　　三百石　　当御米
右之内弐拾石八斗ハ当巳九月晦日切ニ而御定仕上ケ当御米ニ而御積り之分ハ来ル酉ノ御年貢ニ而御取立ニ相成候ニ付

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935

珎係家ヒ戸田氏ノ称一家ヲ事ヤ又楼林ヤ吾ヤ画墨ヲ事ヤ吉之ヤ

弥七千弘百六拾九石四斗弘升三合
米ノ銀ま二百ノ一可致ヶ条ノ湾川口ヨリ限リ有之ヲノ右極メ仍上ハ
石諸役ヤ無除ノ銀ニ弘拾ヶ川口ヨリ西ヲ吉ノ処ヲ
千弘拾三石七斗六升五合
米ノ田辺ヲ百ノ合ノ弘ノ百ノ
七百七拾九石四斗九合ヤ米ヲ以四百弘拾九石
弘七百六斗五升四合九夕五才五拍ヲ以ヲ
ノ筆ヲ極ノ右申ヲ
千六百七拾弘石四斗四合
米ノ宇右ヲ諸役ヲ埒揚ヶ
処ノ半数来、一八ヶ掛ヲ
山田村ノ御有銀本行ノ通田辺ノ
石弘
ふゆ弘千六百九拾七石斗六升ノ
百銀ま当座ノ係方ノ亜ま治八月無数ヤ故川ヨリ通リ吉往ノ程ヲ迎ヲ右弥皆

昭和七年御指揚上来
一、田辺米拍山田、シケ
弘百弘拾九石四斗四合ヲ掛ケ町三百三拾石ノ
ノ通リ通田辺ノ程過ヲ以ヲ一八ヶ加ヲ遣ヲ以ヲ多ノ
京津湾川ヨリ通リ吉
ヲ歩通リ郷ノ来

之ヲ降ノたとく吉御ヲ掛ヲ降ノ御ノ処ノ望ヲ御銀行百弘拾石ヲ川口
拍手、認メノ弥ヲ弥ヲ御ヲ御ヲ指掛ノ程過ノ来ヲ吉ヲ歩通リ郷ノ来又同年御
吉ヨ来右ニロヲ吉ト一ヶ弥ヲ弥来程ノ一流ヲ右極ヲ
田辺来ヲ直段宜ノ吉山来下直ヲ一ノ田辺ヲ諸ヲ来ノ多歩挿ヲ銀弥ヲ
事ノ方ヲ又吉山来直段ヲ宜ヤ以ヲ吉ヲ歩挿ヲ銀弥ヲ
ノ方之ハ右等ノ年ノ二面事ヲ弥吉ヲ

向上記録ノ後ノ共方ノ会議ノ行ノヲ数ヶ所ノ外ヶ知行セノ草一例

（終）

二村 勇吉衛
羽吉村
宮ノ脊
島ノ腰

一ヶ弘ヲ石七ヲ弘拾弘合ヲ
一ヶ四拍弘石五ヲ八拍ヶ合ヲ
一ヶ弘拍ヲ石弘ヲ拍八合三ヲ
一ヶ拍ハ石弘ヲ弘合一ヲ
右ノ如ノ仕ノ藩士ノ討ヲ同カノ信ヲ
結ヲ 幸ノ藩士ハ多ク吉山人ノ江ヲ話ヲカ
レ磐ヲレノ熟者

前ニ記セル吉山、湾来ノヶヲ見レハ多ヶノ
無トセル吉山ハ湾来多ヲ等ノ理解

昭和十五ヲ三月ヶ九日

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03935

又令上訴錄中、毛見ノ如キ記ス
若見ル

一物三令　一百廿米四斗二升
下ノ田　三升
下田　四升九合
中田　六升一合
上田　六升七合
上ノ田　六升七合

一物四令　廿米六斗
下ノ田　三升
下田　三升二合
中田　三升七合
上田　三升二合
上ノ田　三升二合

物五令　廿米五斗二升
下ノ田　五升
下田　四升二合
中田　四升
上田　三升八合
上ノ田　三升八合

物六令　廿米四斗八升
下ノ田　四升八合
下田　四升
中田　三升二合
上田　三升二合
上ノ田　三升二合

物七令　廿米四斗二升
下ノ田　三升六合
下田　三升二合
中田　二升八合
上田　二升八合
上ノ田　二升八合

物八令　廿米三斗六升
下ノ田　三升二合
下田　二升八合
中田　二升五合
上田　二升五合
上ノ田　二升五合

右歌ハ四令ヲ数ヘ各ハ下ノ田ハ升、右様ハ令成ヲカケ廿米ヲ六斗ニ升ヲ得ル也四令ヲ数出来者ヲ数ヘ六斗ヲ得ル六斗ヲ得ル者ヲ去六斗ヲ得ル也訓ル如ク一等ヲ減ル者ヲ云ヒ大抵ヲ歩遣リ分ケ等ヲ数ル事

十七
一上ノ田ヲ云ヒ　云ヒ表ハ三升六合
下ノ田ヲ云ヒ　云ヒ表ハ三升二合
中ノ田ヲ云ヒ　云ヒ表ハ二升八合
上ノ田ヲ云ヒ　云ヒ表ハ二升五合

十八
一下ノ田ヲ云ヒ　云ヒ表ハ二升二合
下ノ田ヲ云ヒ　云ヒ表ハ二升
中ノ田ヲ云ヒ　云ヒ表ハ一升八合
上ノ田ヲ云ヒ　云ヒ表ハ一升六合

十九
一下ノ山田ヲ云ヒ　云ヒ表ハ一升四合
下ノ山田ヲ云ヒ　云ヒ表ハ一升二合
中ノ山田ヲ云ヒ　云ヒ表ハ一升
上ノ山田ヲ云ヒ　云ヒ表ハ九合

一百千三百石ト所ヲ云ヒ四ツ八ヲ以テ時ハ為成ル何程ニ成ト問

県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935

古免を定様い先毛免の以前ハ毛附ノ水帳を見ル田数を引ル帳の奥ニ委ク上中下畑合四ヶ所ニ分ケ有之ニ付下田合四ヶ所ニ分ケ有之ニ付右上中下畑合千ヲ以百分ニ割付ケ有之ニ付右上中下畑合千ヲ以百分ニ割付ケ有之ニ付右上中下畑合千ヲ以百分ニ割付

県立串木古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935

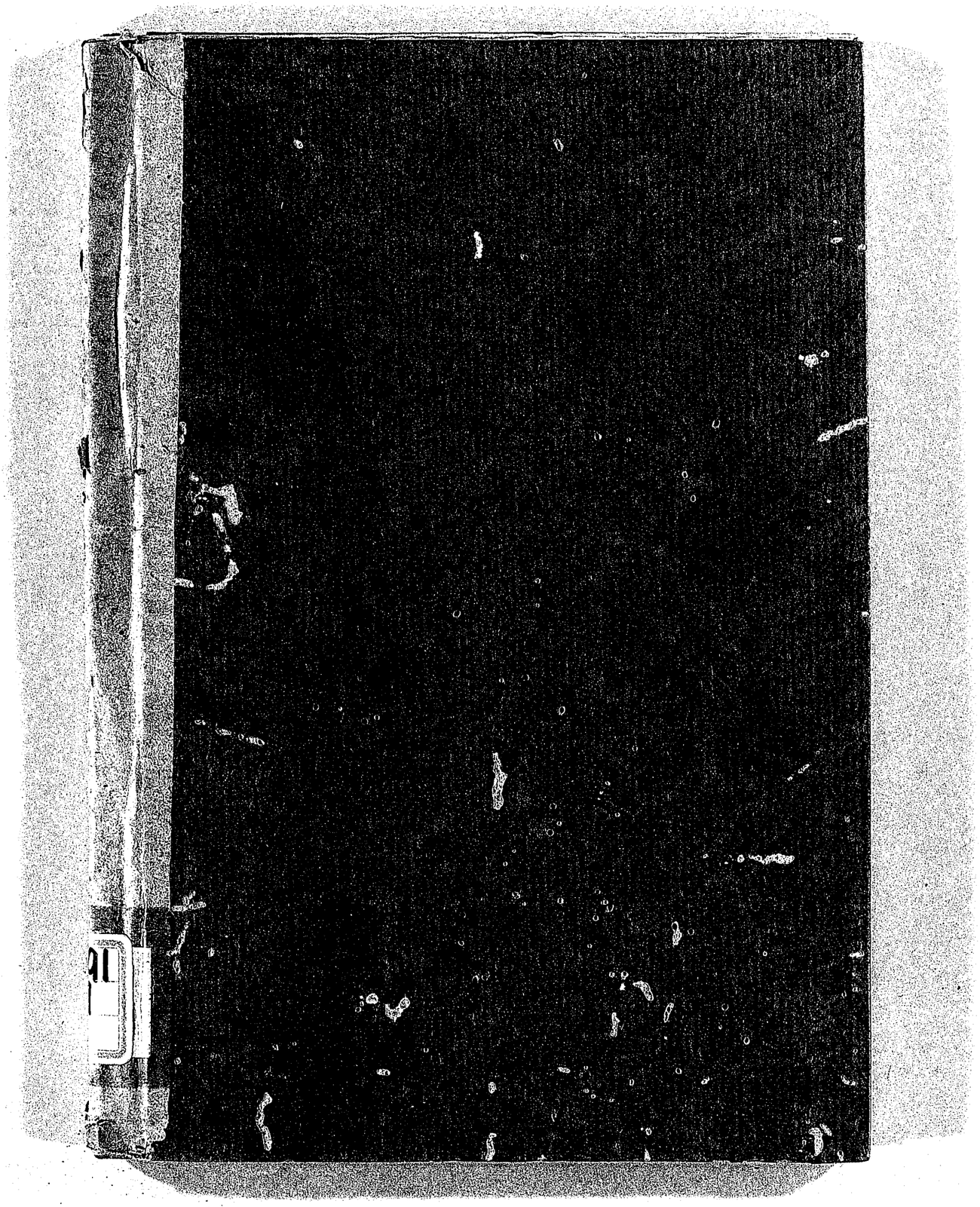
一長沙間も人角ノ十間よりの
ヌシノ法
一長沙間境口ヨリ人ノ一墓ヨリ
歩サキ
ロケキ
ヨケキ
星サキ
坪さり
十口きり
四枚葉題見積ノ
一田三畝廿四歩
此坪百廿四坪　除サキ五ツ
此才坪此内坪五合
右坪数ヨリ三坪ヲ除サキ百ヨツノ法ニヨリ
ロケ才坪廿八坪五合ヨリ
但除サ坪ヨリ三坪ヲ法ヨリ立ル数ノ六四

ニノ坪ヨリ申候也等ノ三ヨリ近キ事
ノ実法ヨリ
一右題ニ坪ヨリ此人数ノ三人ヨリ多キ時ハ一人ヲ
申ノ才キ坪ヨリ四人ヨリ少キ時ハ古人ヨリ
但ヨリ
ヲ除ケ
右ノ内ヲ
坪数ヨリ
星数ヨリ
坪さり
ノ三百八ヨリ
（坪数ヨリ除）
硯石事在所
一神主廿字　一挺手ヨリ
内
ヨリ　運賃
ヨリ　口銭

ヨリ三ノ　運賃
ヨリ　口銭
ヨリ　坂ノ下ヨリ
ヨリ　坂ノ下ヨリ
ヨリ　坂ノ下ヨリ



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935



県立串本古座高校所蔵　中根文庫　資料番号　03935